

第2回 共同輸配送促進に向けたマッチングの仕組みに関する検討会 議事概要

1 日時

平成27年2月9日(月)13:00～15:00

2 場所

霞山会館 牡丹の間

3 議事概要

1. 事務局より、調査の主旨・進め方、今後の検討について資料を説明。

2. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

○マッチングシステムの将来の運営組織の検討については、世の中の先行している事例を参考にして、ビジネスモデルや収支のバランス等様々な観点で検討することが必要である。

○マッチングシステムの利活用を促進するためには、企業規模に応じた物流情報の登録単位の在り方やCO2排出量の計算単位の検討等、より現実を見て、より良い使い方の検討が必要である。

○マッチングの効率をあげるためには、物流センサス等のマクロデータを活用し、発着物量差のある区間を選んで情報提供を求めることが有用である。また、鉄道・船舶の共同配送については、荷主同士の往復マッチングが課題であるので駅や荷扱い条件等の必要情報についての検討が必要である。

○CO2排出量の算定のためには、共同配送を行う相手側の情報が新たに必要であり、そのやり取りについて検討する必要がある。

○運用性を良くするために、物流情報のクリーニングの自動化や物流情報登録とCO2排出量算出との連動性の検討が必要である。

○システムの利活用を通じて物流情報を蓄積し、マクロデータと合わせて活用

して次の施策を見つけることが重要なミッションである。

- インセンティブの与え方については一つに限定する必要はなく、マッチングシステムの活用の段階や、共配が実現しCO2排出量の削減が出来た時点など段階的に与えることが有用である。

以上
(文責 事務局)